

T-11番 要約

1 被害者

伊藤維 平成8年1月11日生

2 接種前

健康、中学校通学、バイオリン、剣道

3 接種 サーバリックス（2010年7月31日、9月4日、2011年4月16日）

4 経過概要

2010年

7月31日、9月4日 サーバリックス接種

2011年

4月16日 サーバリックス3回目接種

ワクチンについて口頭でも文書でも説明なし。いずれの接種後も、注射部位である左腕はパンパンに腫れ、激しい痛みと痺れで腕が上がらない。また、脱力感も。

この年、足が痛く階段を上れないことや、駅から歩けなくなり帰宅困難になること3、4回有り。整形外科に通うが、原因不明で成長痛ではないと言われる。

2012年

8月 知人の見舞い先で足が痛くて歩けなくなり、車いすを借りる。

29日 両太腿から膝にかけての激痛で整形外科受診。レントゲン異常なし。湿布と痛み止め処方されるが効果なし。その後、寝ても座っても痛く、泣き叫びながらのたうち回る日々。松葉杖と車いすの生活で、トイレへも自力歩行できない。学校もほとんど欠席。

9月12日 関東労災受診。CT異常なし。

10月17日 病院でこれ以上何もできないと言われる。同日気功に行くと、3時間だけ痛くない時間があり、狂喜。

以後、気功に通い続けるも症状緩和は一時的で、車いすか杖歩行。激しい膝の痛みの他、両腕の痛み、あばら骨が折られるような腹部の痛み、肩甲骨の痛み、腰の痛み、鎖骨の痛み、光が眩しい、異常に疲れやすい、動悸や息苦しさ等の症状。強い眠気。

5 受診医療機関

古橋整形外科、石川町整形外科、関東労災病院、けいゆう病院、元町たかつか内科クリニック、国立精神・神経医療研究センター

※ けいゆう病院では「考えすぎ」

6 申請

医薬品副作用被害報告（2013年7月14日）

身体障害者手帳申請

T-11番 伊藤 維 (神奈川県横浜市)

1 接種前の生活

私は、現在、桐朋学園大学音楽学部に通う大学1年生です。大学では4歳から習っているバイオリンの実技を専攻しています。小学校5年生のときにバイオリンを専攻したいと決め、中学時代は管弦楽部に所属し、高高一貫の音楽科のある高校を受験して、合格しました。また、私は3歳から合気道を習い、小学校4年生から高校までは合気道に代わって剣道を習っていました。剣道では初段を取得したので、次は2段を取得することを目指していました。私は学校に通うこと、バイオリンを弾くこと、運動することがどれも大好きでした。これまで大きな病気をしたことはないので、風邪を引いたりすること以外で学校を欠席したことはありません。既往歴、服用歴はなく、アレルギーは花粉症とネコアレルギーがあるだけです。

2 接種直後の症状

私は、サーバリックスを3回に分けて受診しました。1回目の接種は、2010年7月31日でした。接種を受けるにあたり、医師からこれがどのようなワクチンなのか、どのような副作用が出る可能性があるのか等、説明は一切なく、説明文書もありませんでした。ただ、接種を受けることについての同意書にサインをした記憶はあります。ワクチンについて医師から口頭や文書でも説明がなかったことは、2回目3回目の接種の時も同じです。

1回目の接種をした直後、注射した左腕がパンパンに腫れて、ものすごく激しい痛みと、痺れがありました。腫れは3～4日で引いて、痛みや痺れは1週間ほどで治まりましたが、注射した所にしこりが残りました。また、接種後しばらく、異様な倦怠感と、重苦しい感じがありました。

2回目の接種は、2010年9月4日でした。1回目のときと同じように、注射した左腕の腫れと激しい痛み、痺れ、しこり、倦怠感が残りました。腫れ、痺れ、痛みは、1回目のときと同様1週間位で落ちつきました。

1回目、2回目の接種を受けた時期、私は桐朋女子高等学校音楽科の受験を控えていました。バイオリンの実技試験があるため、バイオリンを毎日練習しなければならず、接種直後は激痛を堪えながらなんとかバイオリンを持って練習をしました。左腕の痛みは1週間ほどで一旦落ち着いたのですが、その後腕の痛みが再発することがあり、また、腕だけではなく足の痛みが出ることもありました。階段の上り下りの時に膝や太腿が痛むことがあったので、整形外科を受診したのですが、検査をしても原因が分からなかったため、「成長痛ではないか。」と言われてしまい、痛みを我慢するしかありませんでした。それでもなんとか試験に合格し、桐朋女子高等学校音楽科に進学することができました。

3回目の接種は、高校入学後の2011年4月16日でした。母が接種を受けた病院の医師から、「3回受けないと効果がない。」と説明を受けていたことと、当時自分の身体の変調とワクチンの関連性など思い至らなかったため、接種直後の痛みを伴うのは嫌でしたが、3回目も接種を受けることにしたのです。3回目の接種後、やはり1、2回目のときと同様、注射した左腕の腫れ、激しい痛みと痺れ、しこり、異様な倦怠感と重苦しい感が残りました。

3 接種後の症状経過

3回目の接種後、1、2回目の接種後より頻繁に、両足が痛くて歩行に支障が出るようになりました。階段を上ることができず途中で休まないといけなかったり、バイオリンの練習のため長時間起立した状態で過ごした後、帰り道、横浜駅で足が痛くて歩けなくなり、レッスンに付き添っていた母親の肩を借りて帰宅することが、2011年夏ごろには3、4回ありました。

症状が劇的に悪化したのは、2012年8月でした。同年8月、知人のお見舞いのために病院に言ったところ、突然足が痛くなって歩けなくなり、病院で車イスを借りるという出来事がありました。そして、同年8月29日、両足の太腿から膝にかけて激痛が走り、近所の整形外科を受診しました。レントゲンを撮ってもらいましたが異常がなく、湿布と痛み止めを処方されましたが、全く効果はありませんでした。その日以降、座っていても寝ていても両足が激痛で、本当に辛く、室内もまともに歩くことができなくなりました。9月1日から新学期が始まったのですが、激痛で毎日欠席せざるを得なくなりました。

同年9月12日、関東労災病院を受診し、腰から下のCT撮影をしてもらいましたが、異常なしと言われ、痛み止め（ロキソニン）だけ処方されました。このとき、関東労災病院の医師から、「16、17歳の女の子に原因不明の脚の痛みで歩けなくなる子が3、4人いる。1人は半年くらい車イスなんだよ」という話をされました。

しかし、痛み止めの効果はなく、トイレへも自力歩行できない程まで痛みは憎悪し、「痛い、痛い」と涙しながら家族に訴える日々でした。痛む箇所は、当初は両足の太腿から膝にかけて顕著だったのですが、次第に両腕や腹部のあばらが折られるような痛みもできました。病院でカロナールを通常の3倍処方されましたが、効果は全くありませんでした。

同年10月1日、関東労災病院で腰から下のMRIを撮ってもらいましたが、やはり異常はありませんでした。10月3日には何らかの炎症が起きているのではないかということで神経ブロックの薬と痛み止め、精神安定剤を処方されましたが、やはり効果はありませんでした。10月10日には延髄のすぐ下に効く薬（「 ترامセツト」という麻薬のようなもの）を処方されたのですが、それも効果はありませんでした。10月17日の受診では、これ以上何もできないと言われてしまいました。

10月17日受診した同日、たまたま知人の紹介で初めて気功に行ってみました。すると、なんと、気功を受けた後3時間だけ痛みが消えたのです。もう2ヶ月近く歩いてない状態だったので、痛みがなくなっても歩くことはできませんでしたが、私は2ヶ月余り続いた痛みから解放された喜び、嬉しさのあまり、何人もの友達に電話をかけて、「もう痛くないんだよ！」ということを伝えました。

しかし、3時間程で元の激痛の状態に戻りました。それ以後、定期的に、あるいは痛みがひどいときに気功に通っており、気功を受けた後一時的には良くなるのですが、日常生活において痛みが消えることはありません。

この頃から現在に至るまでの恒常的な症状としては、両足（特に膝周り）の痛み、腰の痛み、両腕（特に左腕）の痛み、腹部のあばら骨を折られるような痛み、背部の肩甲骨の痛み、です。脚は激痛のため歩行ができず、自宅では痛みのためトイレやお風呂にも一人で入れないことがあり、母の介助が常時必要な状況です。また、外に出るときは車イスか杖を使っています。光が眩しくてサングラスを使わないと外を歩けなかったり、指の脱力感から鉛筆が持てなくなることに加え、時々頭痛と、体に内出血様の痣ができることがあります。そして、異常に疲れやすいです。痛みから寝付けなかったり、夜中に目が覚めた

りすることも関係していると思いますが、朝起きるのがとても辛くなりました。また、夏には動悸と息苦しさがひどく度々酸素吸引を使っていました。特に夏にこれらの症状が悪化するように感じます。

4 医師の所見

母が、知人から子宮頸がんワクチンの副作用について報道されていることを教えてもらい、母親が報道を見たところ、私の症状と酷似していると感じ、被害者連絡会のホームページに書き込みをしたそうです。そうしたところ、同会事務局長の池田さんから連絡があり、国立精神・神経医療研究センターの佐々木征行医師を受診しようとして勧められました。

2013年8月15日、私はホームドクターの紹介状を持って、国立精神・神経医療支援センターを受診しました。腰から下のMRIや脳のMRIを撮ってもらいましたが、特に異常所見は見られないとのことでした。同院の佐々木征行先生は、「繊維筋痛症に似た『症状』はある。」「子宮頸がんワクチンの副作用と疑われる典型的な症状なので、関連性はある。」と言っていました。現在、医薬品の服用を含め特に治療は受けていませんが、今後は脚や頭のMRIを定期的に撮りながら経過観察をしていく方針とのことでした。

5 現在の生活状況

私は桐朋学園大学の音楽科でバイオリンの実技を専攻していますが、毎日脚や腕、身体が痛いため、週に2、3日は学校を欠席しており、ひどいときは週に1日しか出席できないこともあります。授業に出席できる日があっても、10分から45分程度出席するだけで痛みを耐えられなくなり、90分授業全部に出席することができず退席することがしばしばです。学校には、授業に出席する代わりにレポートで対応するなどの配慮をしてもらっています。

なお、横浜市内から都内の大学に通っているため、通学は全て母の車での送迎で、校内では車イスか杖を使っています。車イスだと友達との目線が違ってしまうため、できれば杖を使いたいのですが、痛みを耐えられず車イスを選択することもあります。

6 救済申請等

2013年6月18日、母が横浜市に私の症状についての報告を入れました。事情聴取のため市職員の方と面談し、以後何回か母に電話で状況確認をしてくれたそうです。市職員の方の話では、子宮頸がんワクチン接種後の私の症状について、厚労省に報告を上げたとのことでした。

2013年7月14日、PMDA（医薬品医療機器総合機構）に医薬品副作用被害報告を行いました。しかし、報告後しばらく応答が無く、2014年3月になってようやく、調査を開始するとの文書連絡が届きました。母がPMDAに電話連絡をとったところ、「調査は開始するが、この被害者のデータが厚労省に上がっていくかは分からないし、その有無についても一切回答できない。」と言われたそうです。

今、身体障害者手帳の申請も行っており、決定待ちの状況です。

7 心情、要望等

私の身体が変調してから、いくつかの病院を受診しましたが、ある病院では「考え過ぎじゃないか。」と言われ、とても冷たい対応をとられたことに傷つきました。

私は今、毎日体全身の痛みを抱えながら生活しています。その痛み自体、人とお喋りを続けたり歩いたりすることができなくなるほど激しい痛みなので、本当に辛いです。生活が一変した今、私が一番望むことは、これまでのような普通の生活を送りたいということです。学校に通うこと、スポーツをすること、バイオリンの練習をすること、友達と遊びに行くことなど、皆が普通にしていることをできないのが、一番辛いです。将来バイオリニストになるという夢を持って、これまで練習を積み、脚や腕の痛みを抱えながら高校受験も乗り越えました。それが、高校入学後、段々脚の痛みが悪化し、2012年、高校2年の夏に激痛になって、痛みが脚だけでなく全身にまで広がってしまいました。せっかく高校受験を乗り越えてこれからバイオリンに力を入れたいと思っていたところ、思うように練習ができず、これまでずっと描いてきた夢も諦めなければならないのかという思いがあります。また、夢のことだけでなく、将来の生活への不安も、当然持っています。今の状態では母がいなければ一人で生活をするできません。このまま状態が良くならない限り、親亡き後生活をサポートしてもらえるようなサービスと、最低限生活をしていけるだけの金銭的援助が必要だと思っています。

私のような被害者をこれ以上出して欲しくないということと、早くこの問題への原因解明、治療法が確立することを望みます。